

男女共同参画に関する市民意識調査

結果報告書

<概要版>

平成25年1月

前 橋 市

目 次

1	回答者の属性	1
2	男女平等について	2
3	人権について	3
	配偶者や恋人からの暴力被害について	4
4	学校教育について	7
5	家庭生活について	8
	「男は仕事、女は家庭」という考え方について	8
	結婚・家庭に関する考え方について	9
6	子育て・介護について	10
7	社会参加活動について	12
8	職業生活について	13
	一般的に女性が職業を持つことについて	14
9	女性の社会参画について	15
10	男女共同参画を進めるための市の施策について	16

調査について

前橋市では、男女共同参画社会の実現を目指して、基本計画「まえばしWindプラン2009」を策定し、様々な取り組みを進めています。その一環として、市民の皆様の男女共同参画に関する意識や実態、ニーズを的確に把握し、今後の男女共同参画推進施策の基礎資料とすることを目的に、平成24年7月に男女共同参画に関する市民意識調査を実施しました。市内にお住まいの18歳以上の方の中から無作為に選んだ3,000の方に郵送によるアンケート調査をお願いし、1,303人の方から回答（有効回収率43.3%）をいただきました。

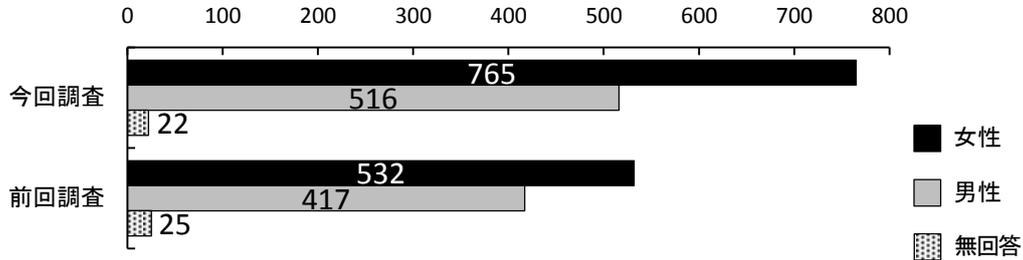
概要版のみかた

- ・グラフに掲載した“n=〇〇〇”は回答者数（有効回収数）を表します。
- ・回答比率（%）は、小数点第2位を四捨五入して算出していますので、合計が100%を上下する場合があります、設問によっては、複数回答の結果、回答比率が100%を超える場合があります。
- ・概要版で比較にもちいている「前回調査」数値は平成19年度に前橋市で行った「男女共同参画に関する市民意識調査」のものです。

1 回答者の属性

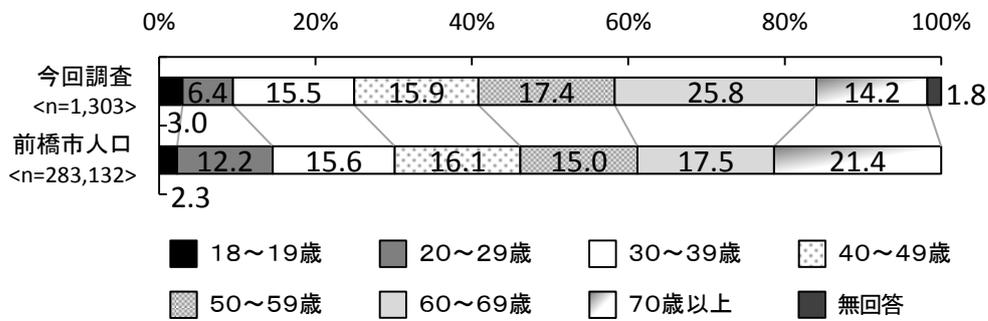
【性別】（有効回収数）

有効回答数は、女性765票、男性516票と、ともに前回調査を上回っています。



【年齢別】

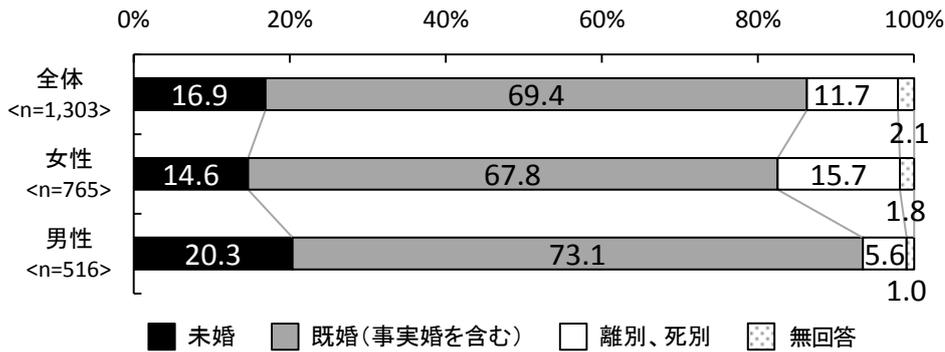
前橋市人口と比べると18～19歳、30～39歳、40～49歳の誤差は1ポイント以内となっています。



※前橋市人口は、本調査実施直近の6月末日の18歳以上の人口割合です。

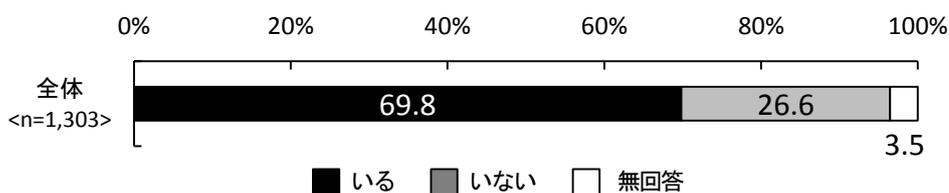
【婚姻状況】

女性では「既婚」67.8%、「離別、死別」15.7%、「未婚」14.6%の順となっています。
男性では「既婚」73.1%、「未婚」20.3%、「離別、死別」5.6%の順となっています。



【子どもの有無】

子どもが「いる」人は69.8%、「いない」人は26.6%となっています。

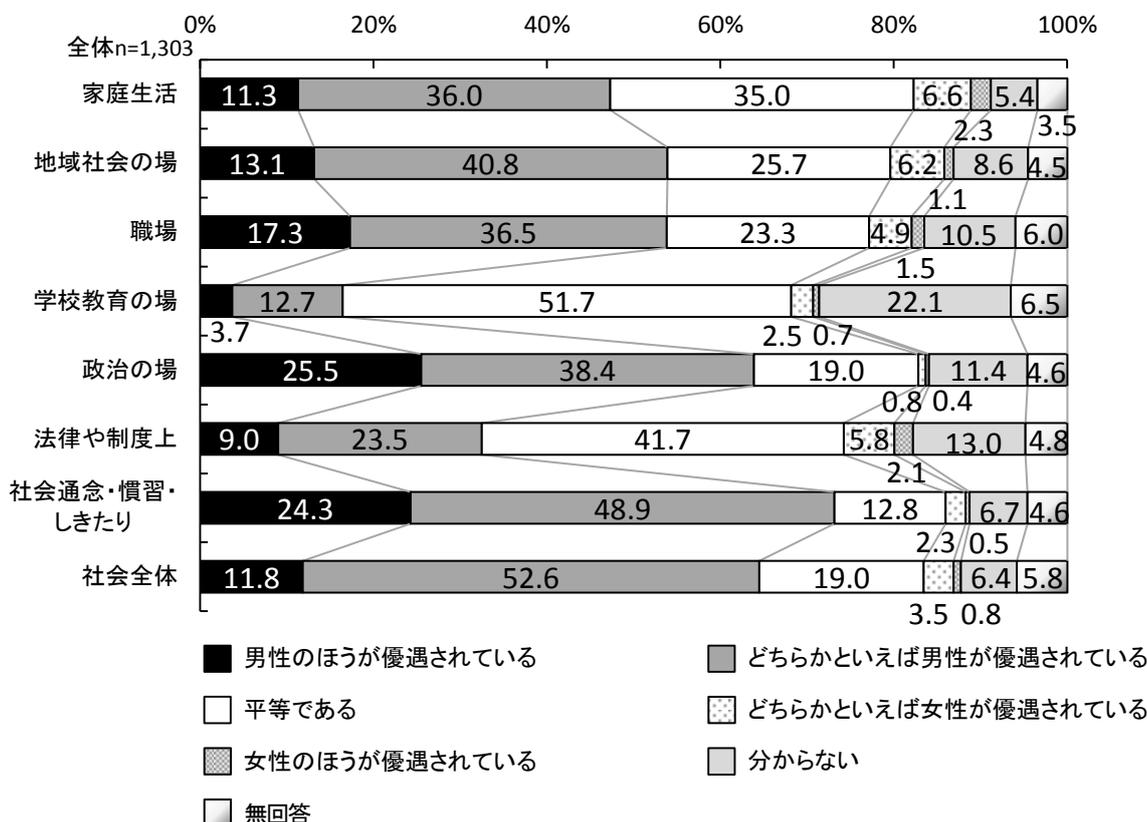


2 男女平等について

【今の生活や社会の状況に関する意識】

「平等である」は、【学校教育の場】51.7%が最も高く、次いで【法律や制度上】41.7%、【家庭生活】35.0%と続いています。

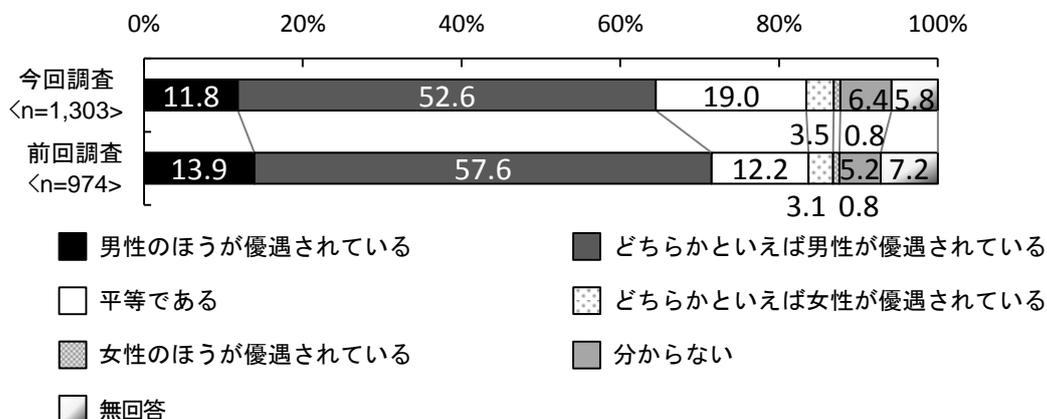
「男性のほうが優遇されている」「どちらかといえば男性が優遇されている」を合わせると、【社会通念・慣習・しきたり】73.2%が最も高く、次いで【社会全体】64.4%と続いています。



【「社会全体」について前回調査との比較（参考）】

「平等である」は6.8ポイント増加しました。

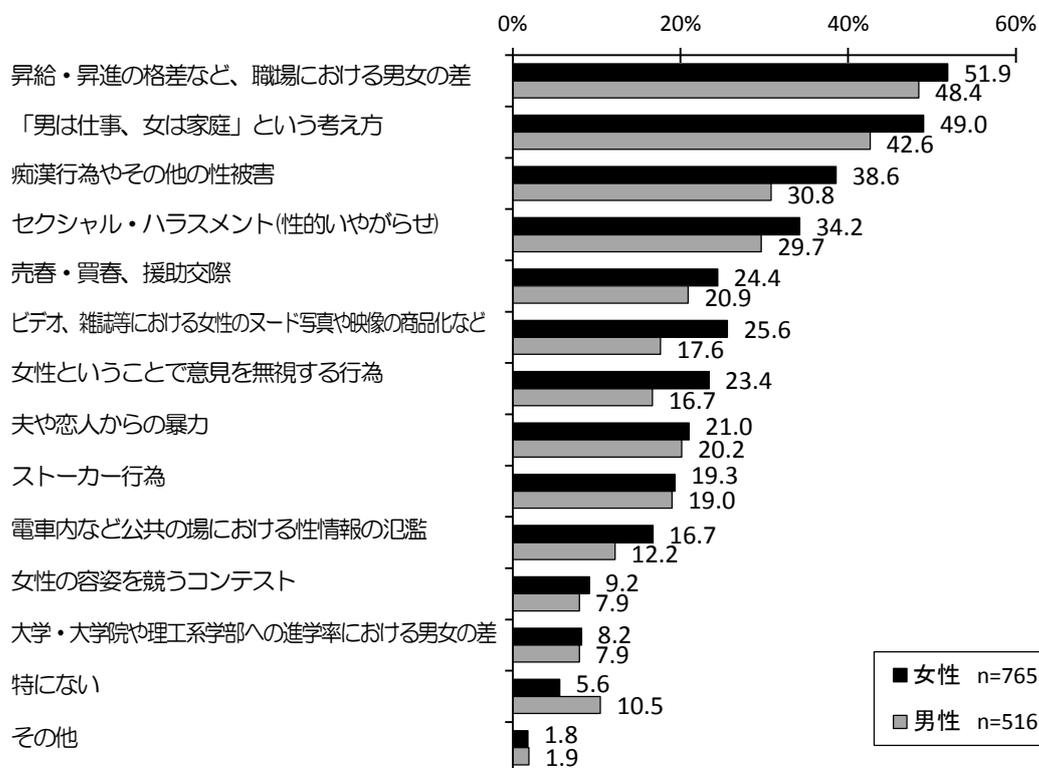
「女性のほうが優遇されている」「どちらかといえば女性が優遇されている」を合わせたものは、0.4ポイント増加し、「男性のほうが優遇されている」「どちらかといえば男性が優遇されている」を合わせたものは、7.1ポイント減少しました。



3 人権について

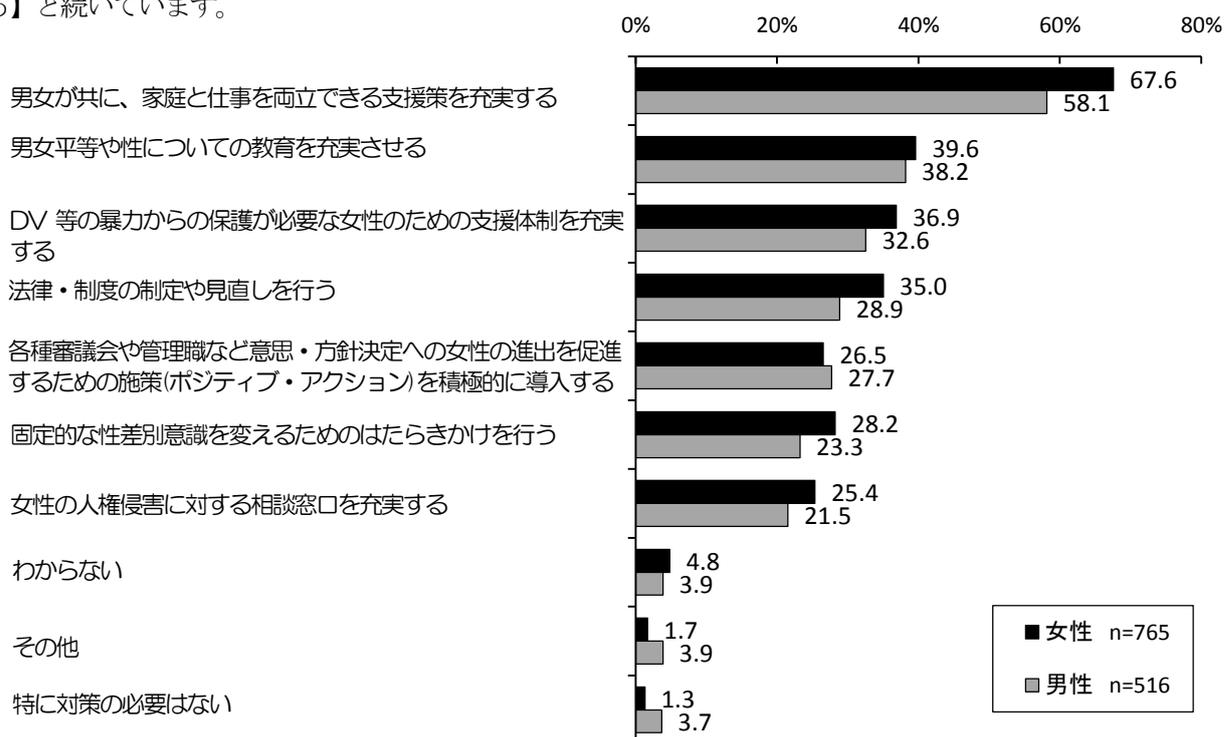
【女性の人権が尊重されていないと感じること】

女性、男性ともに【昇給・昇進の格差など、職業における男女の差】が最も高く、次いで【「男は仕事、女は家庭」という考え方】、【痴漢行為やその他の性被害】と続いています。



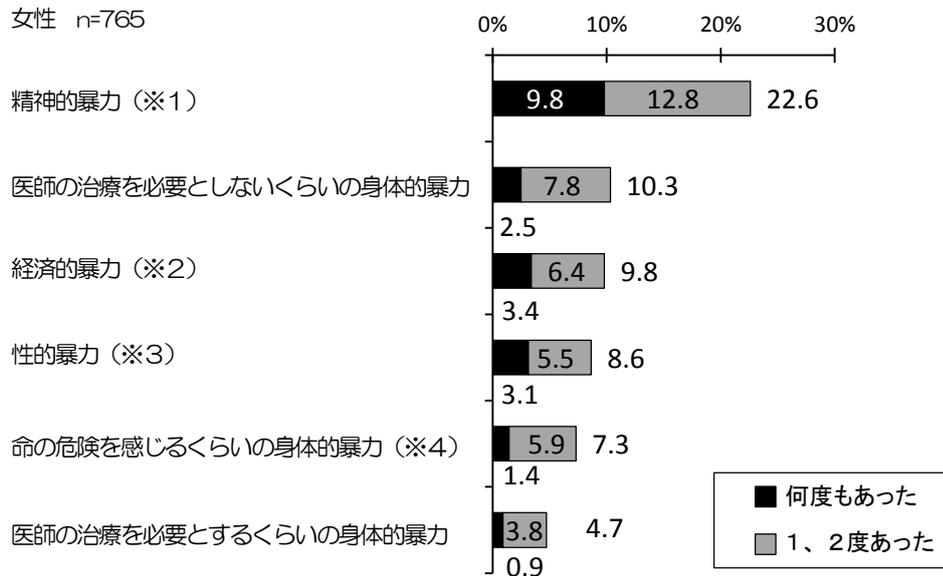
【女性の人権を守るためにすべきこと】

女性、男性ともに【男女が共に、家庭と仕事を両立できる支援策を充実する】が最も高く、次いで【男女平等や性についての教育を充実させる】、【DV等の暴力からの保護が必要な女性のための支援体制を充実する】と続いています。

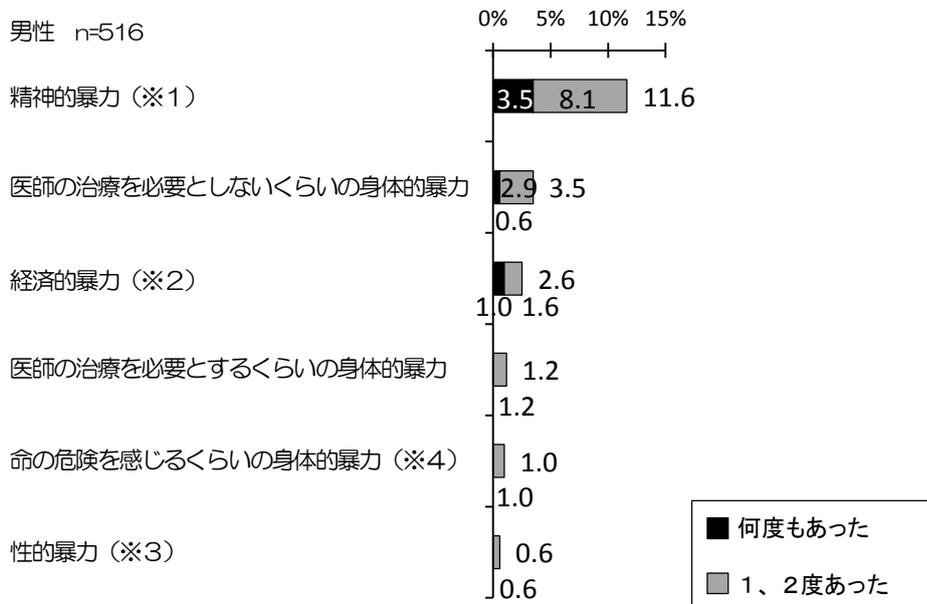


【配偶者や恋人からの暴力被害の経験】

全ての項目で女性が男性より割合は高く、「何度もあった」「1、2度あった」を合わせると、女性では【精神的暴力】22.6%が最も高く、次いで【医師の治療を必要としないくらいの身体的暴力】10.3%、【経済的暴力】9.8%と続いています。



男性では、【精神的暴力】11.6%が最も高く、次いで【医師の治療を必要としないくらいの身体的暴力】3.5%、【経済的暴力】2.6%と続いています。

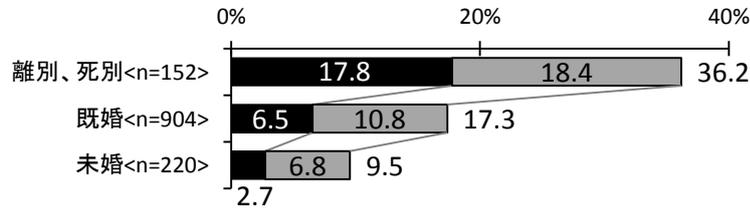


- ※1 【精神的暴力】おどす、無視する、人格を否定する言葉を言う、交友関係や行動を監視するなど
- ※2 【経済的暴力】生活費を渡さない、働くことを妨害するなど
- ※3 【性的暴力】性行為や中絶を強要する、ポルノ雑誌などを無理に見せる、避妊に協力しないなど
- ※4 【命の危険を感じるくらいの身体的暴力】なぐる、けるなど

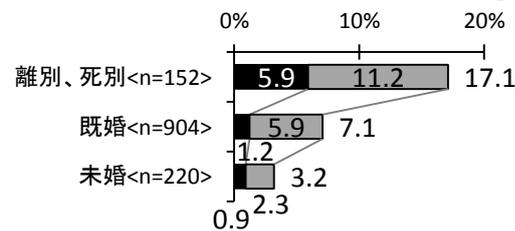
【配偶者や恋人からの暴力被害の経験について婚姻状況別比較】

婚姻状況別で、「何度もあった」「1、2度あった」を合わせると、各項目とも【離別、死別】が最も高く、次いで【既婚】、【未婚】と続いています。

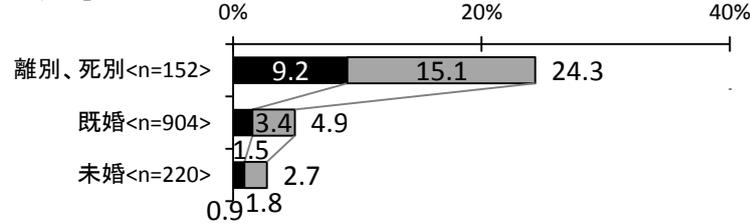
【精神的暴力】



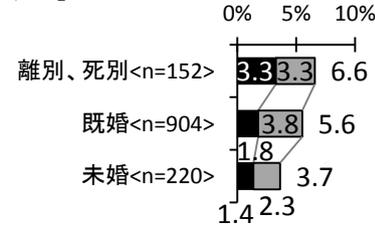
【医師の治療を必要としないくらいの身体的暴力】



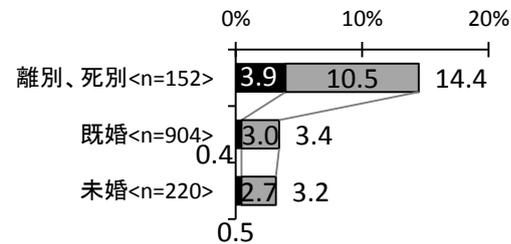
【経済的暴力】



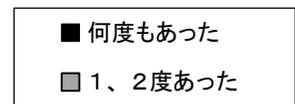
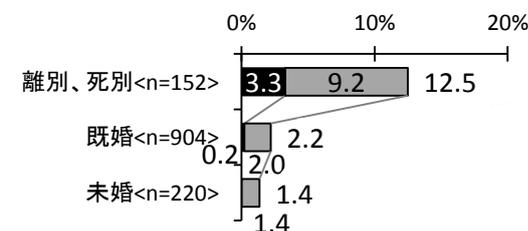
【性的暴力】



【命の危険を感じるくらいの身体的暴力】

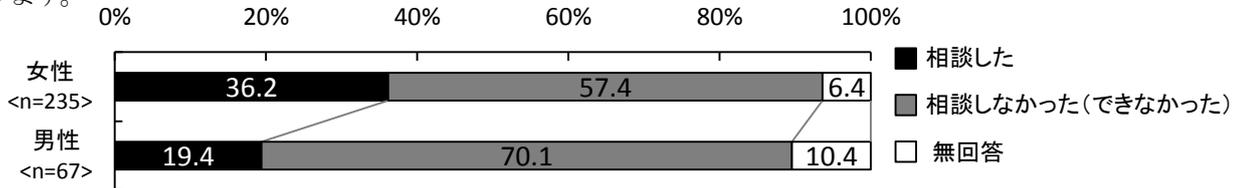


【医師の治療を必要とするくらいの身体的暴力】



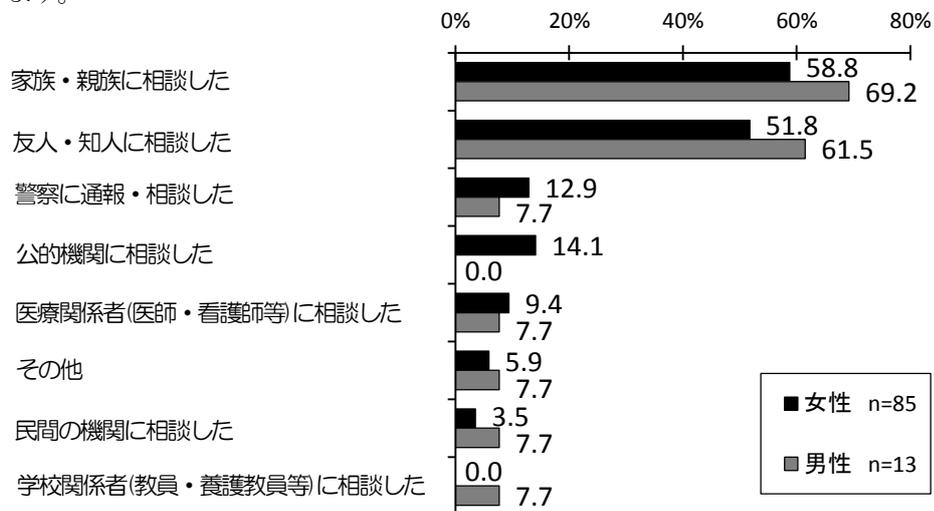
【暴力を受けたときの相談状況】

「何度もあった」「1、2度あった」とお答えした方で、「相談した」と回答した方は女性36.2%、男性19.4%となり、「相談しなかった(できなかった)」と回答した方は女性57.4%、男性70.1%となります。



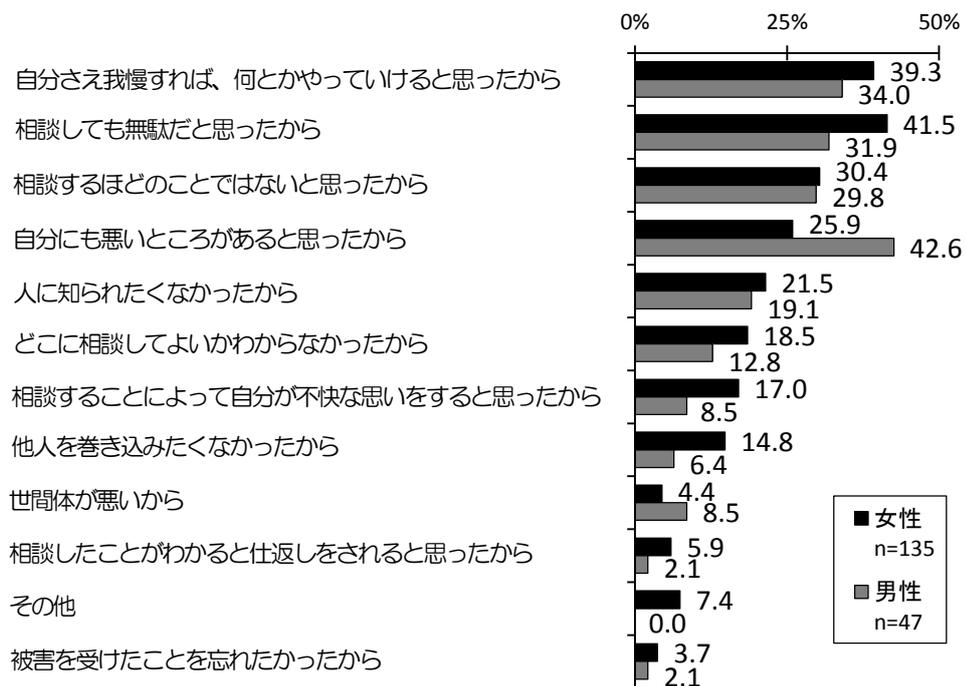
【暴力を受けたときの相談先】

「相談した」と回答した方の相談先は、男女とも【家族・親族に相談した】、【友人・知人に相談した】が5割を超えています。



【相談しなかった(できなかった)理由】

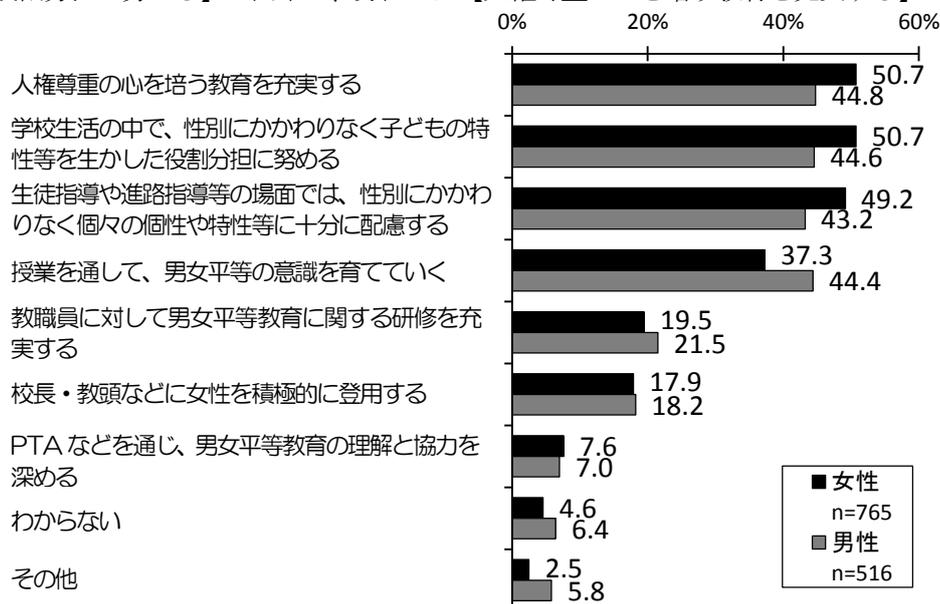
「相談しなかった(できなかった)」理由は、女性では【相談しても無駄だと思ったから】41.5%、男性では【自分にも悪いところがあると思ったから】42.6%が最も高くなっています。



4 学校教育について

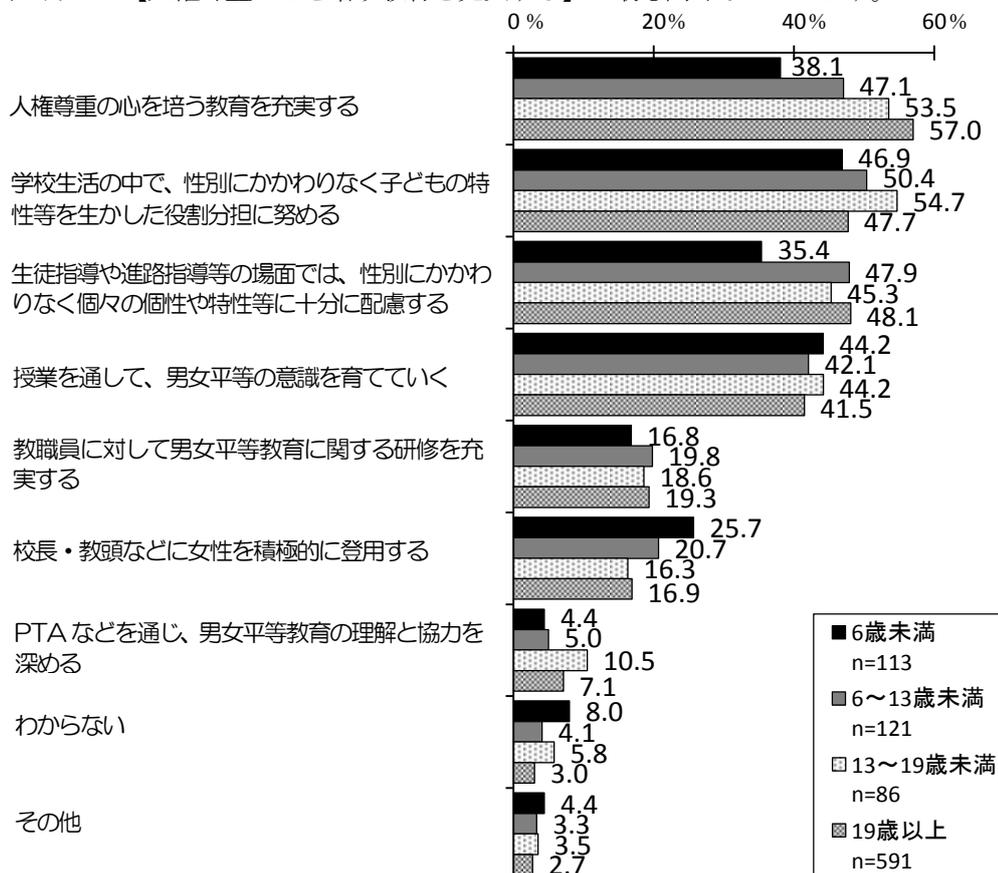
【学校教育で重要なこと】

女性では【人権尊重の心を培う教育を充実する】、【学校生活の中で、性別にかかわらず子どもの特性等を生かした役割分担に努める】が同率で、男性では【人権尊重の心を培う教育を充実する】が最も高い。



【「学校教育で重要なこと」について一番下の子どもの年齢別比較】子どもがいる方にご回答いただきました。

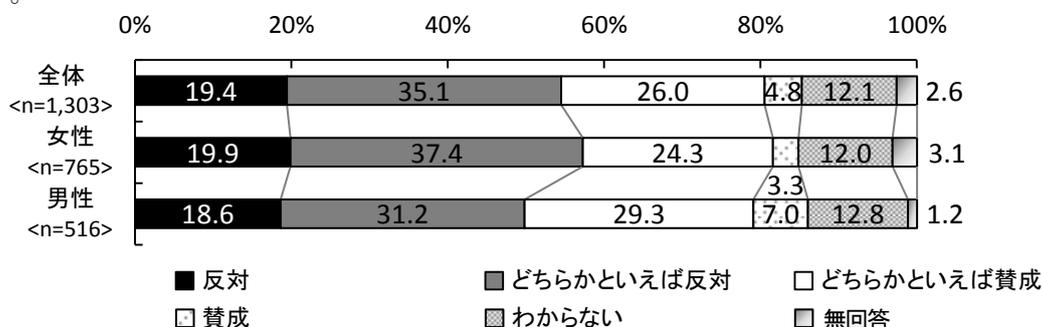
一番下の子どもの年齢別でみると、「6歳未満」「6～13歳未満」「13～19歳未満」の子どもを持つ方では【学校生活の中で、性別にかかわらず子どもの特性等を生かした役割分担に努める】、「19歳以上」の子どもを持つ方では【人権尊重の心を培う教育を充実する】が最も高くなっています。



5 家庭生活について

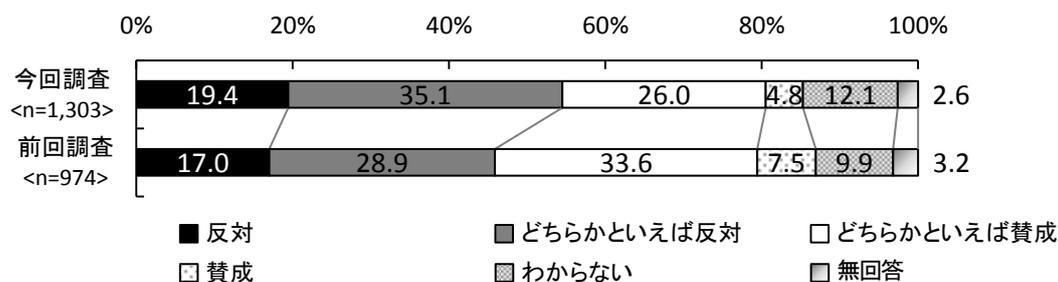
【「男は仕事、女は家庭」という考え方について】

女性、男性ともに「どちらかといえば反対」が最も高く、次いで「どちらかといえば賛成」と続いています。



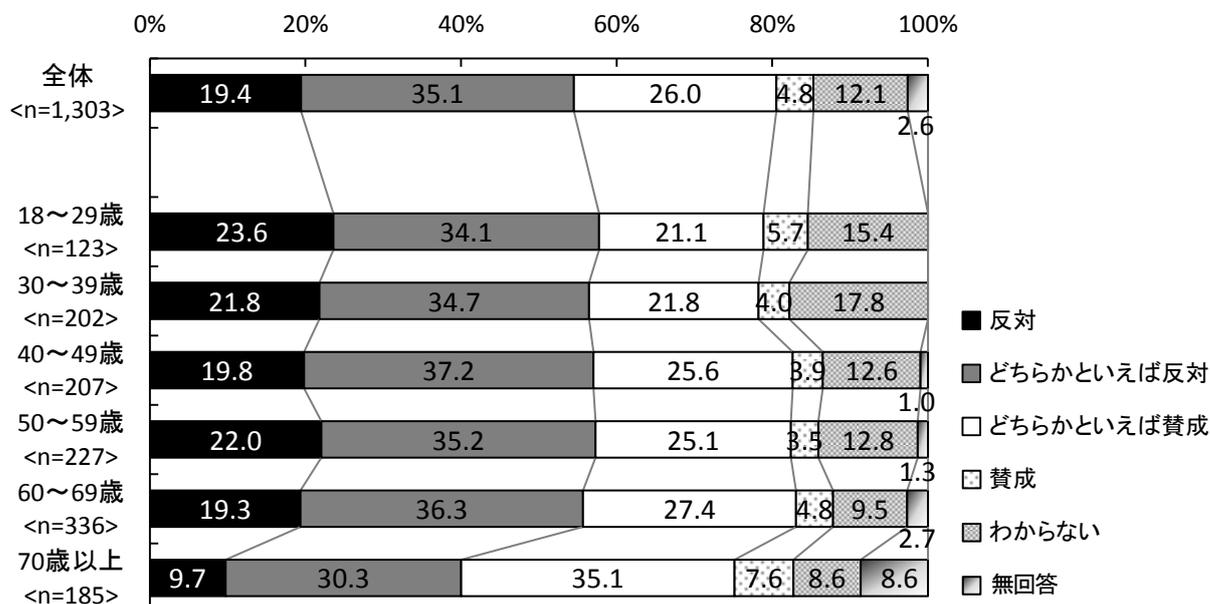
【「男は仕事、女は家庭」という考え方について前回調査との比較（参考）】

全体では、「反対」、「どちらかといえば反対」、「わからない」が増加し、「賛成」、「どちらかといえば賛成」は減少しています。



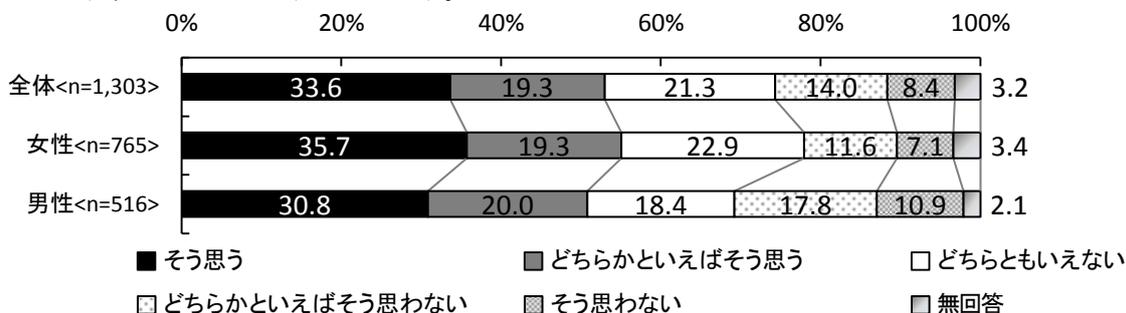
【「男は仕事、女は家庭」という考え方についての年齢別比較】

年齢別では、「反対」「どちらかといえば反対」を合わせると【18～29歳】57.7%が最も高く、次いで【50～59歳】57.2%と続いています。また、「賛成」「どちらかといえば賛成」を合わせると【70歳以上】42.7%が最も高く、次いで【60～69歳】32.2%と続いています。



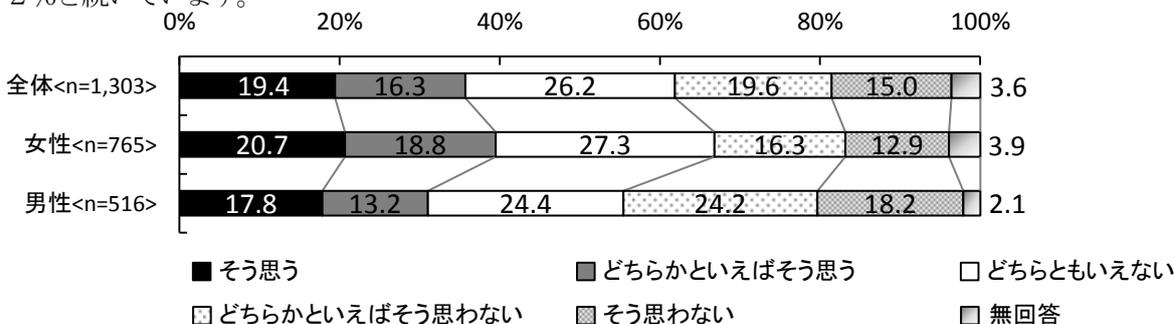
【「結婚は個人の自由だから、してもしなくてもよい」という考え方について】

女性、男性とも「そう思う」が最も高く、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせると、女性55.0%、男性50.8%となります。



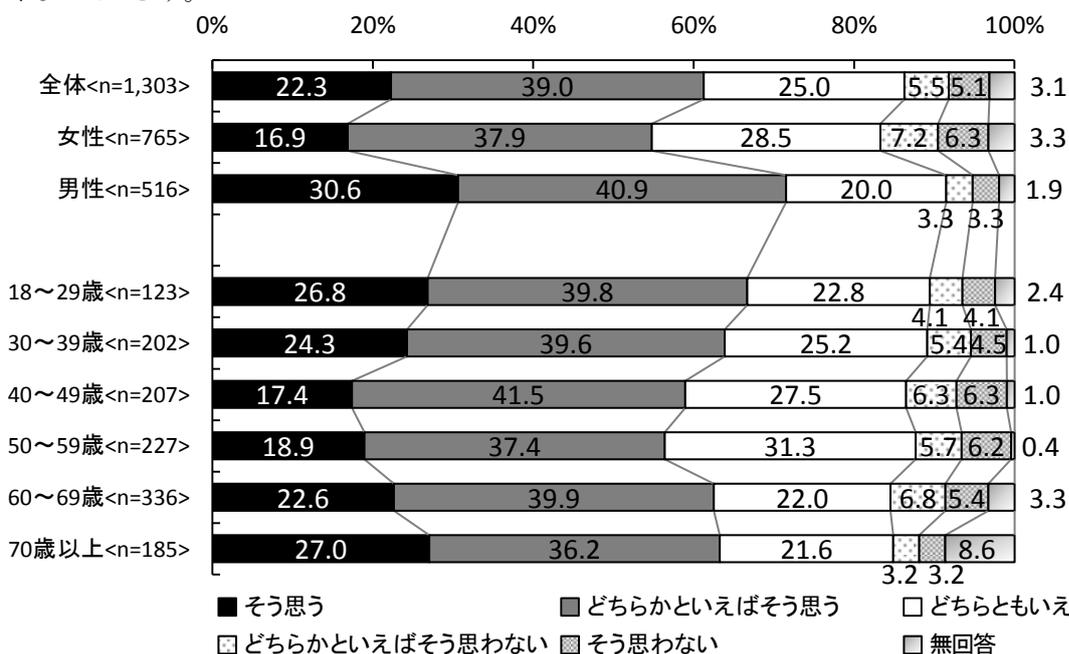
【「結婚しても子どもを持つことにこだわらない」という考え方について】

女性では「どちらともいえない」27.3%が最も高く、次いで「そう思う」20.7%と続いています。男性では「どちらともいえない」24.4%が最も高く、次いで「どちらかといえばそう思わない」24.2%と続いています。



【「結婚したら自分自身のことより、配偶者や子どもなど家族を中心に考えて生活したほうがよい」という考え方について】

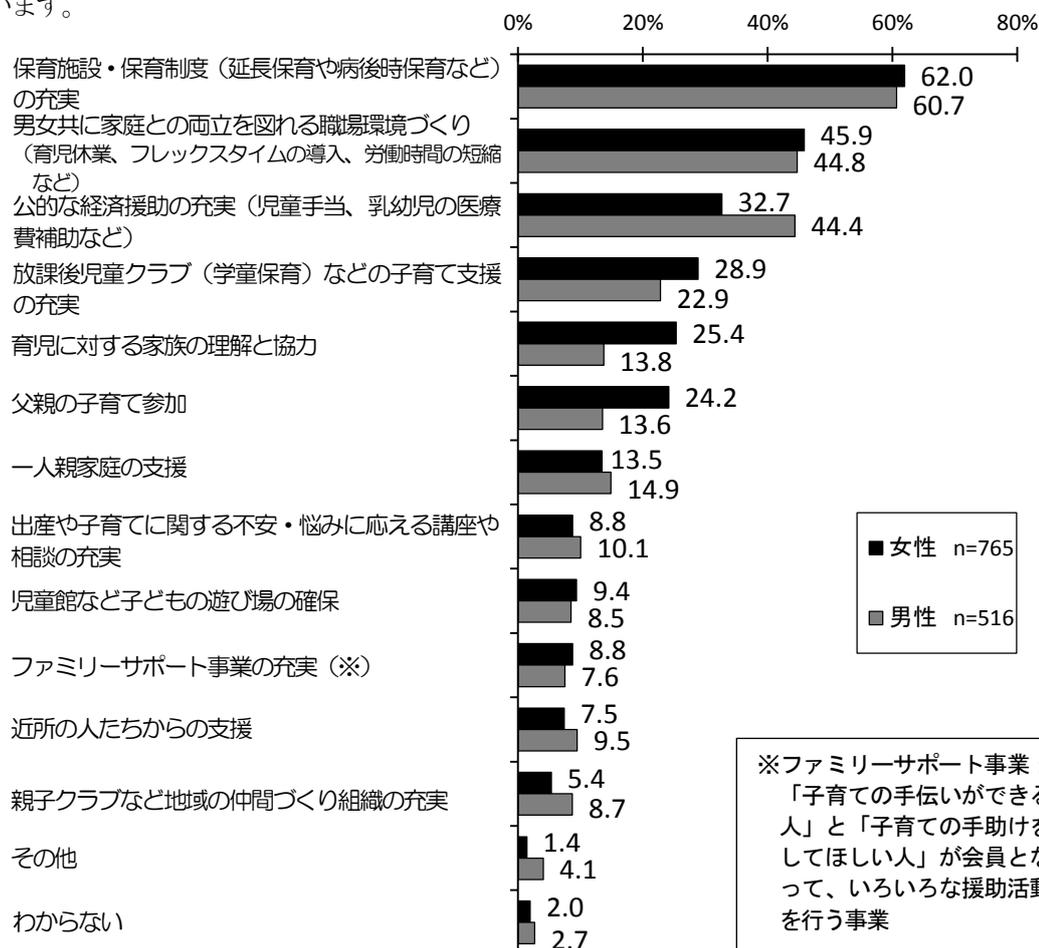
女性、男性とも「どちらかといえばそう思う」が最も高く、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせると女性54.8%、男性71.5%となり、年齢別で見ると【18～29歳】66.6%が最も高くなっています。



6 子育て・介護について

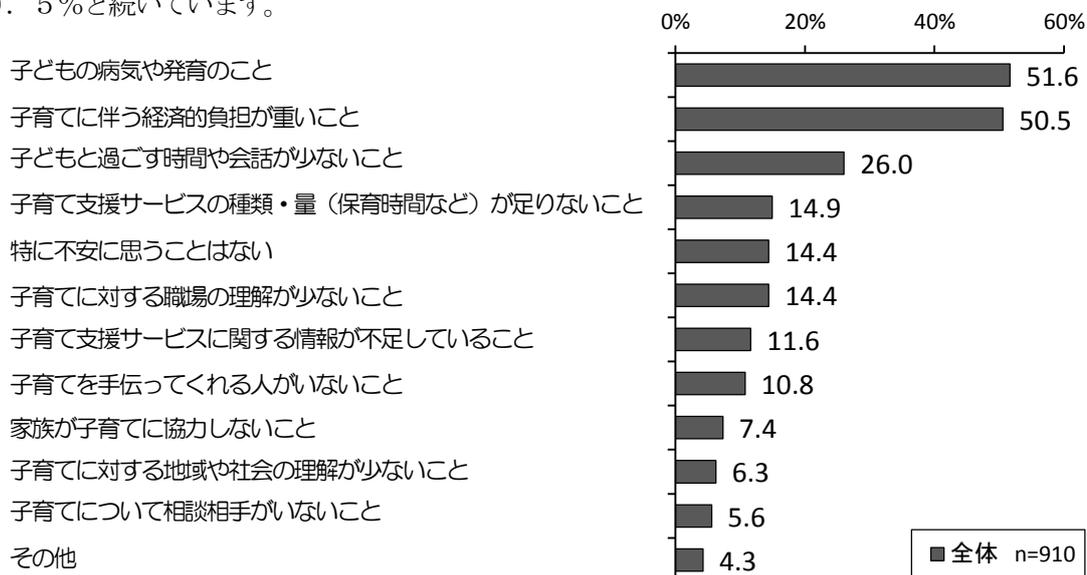
【子どもを安心して産み育てる環境整備に必要なこと】

女性、男性とも、【保育施設・保育制度（延長保育や病後時保育など）の充実】が最も高く、次いで【男女共に家庭との両立を図れる職場環境づくり（育児休業、フレックスタイムの導入、労働時間の短縮など）】、【公的な経済援助の充実（児童手当、乳幼児の医療費補助など）】と続いています。



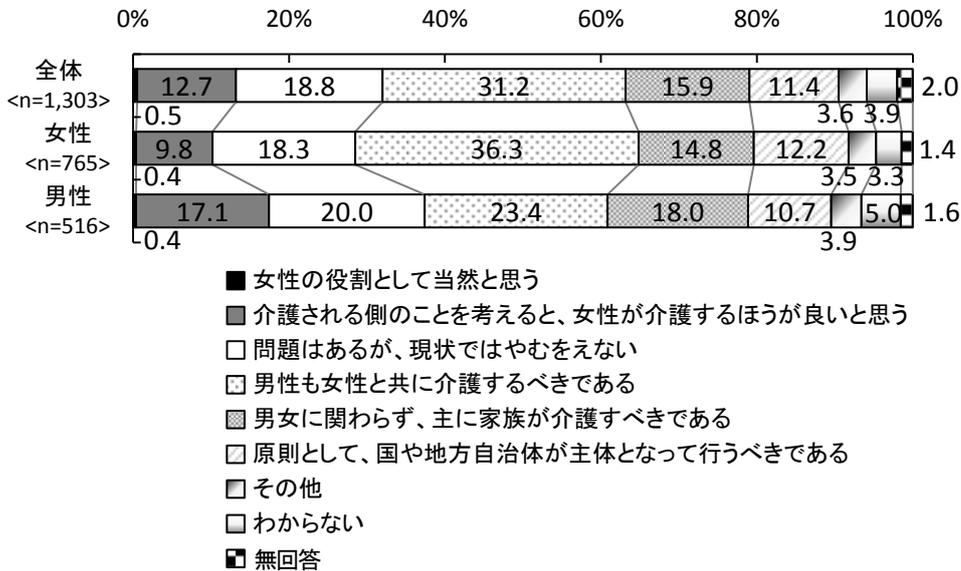
【子育てについて不安に思うこと】 子育てを経験している（いた）方にご回答いただきました。

全体では、【子どもの病気や発育のこと】51.6%が最も高く、次いで【子育てに伴う経済的負担が重いこと】50.5%と続いています。



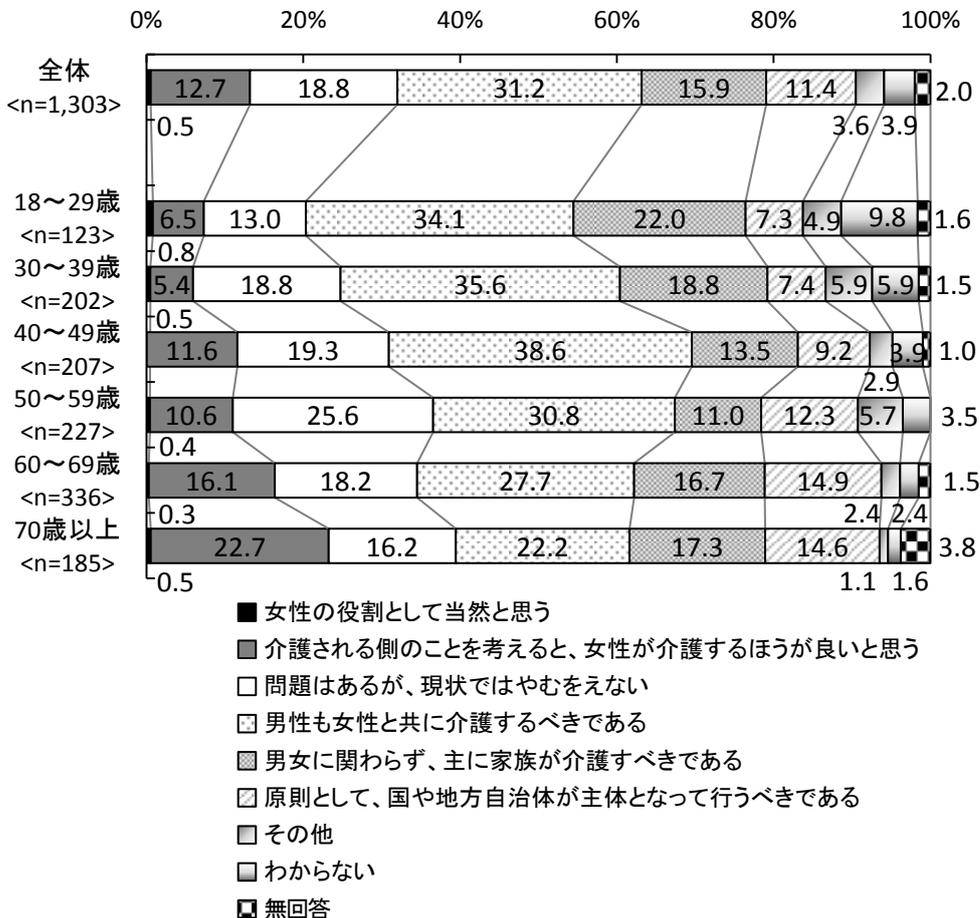
【高齢者介護が女性の役割となりがちなことについて】

女性、男性ともに「男性も女性と共に介護すべきである」が最も高く、次いで「問題はあるが、現状ではやむをえない」、「男女に関わらず、主に家族が介護すべきである」と続いています。



【高齢者介護が女性の役割となりがちなことについての年齢別比較】

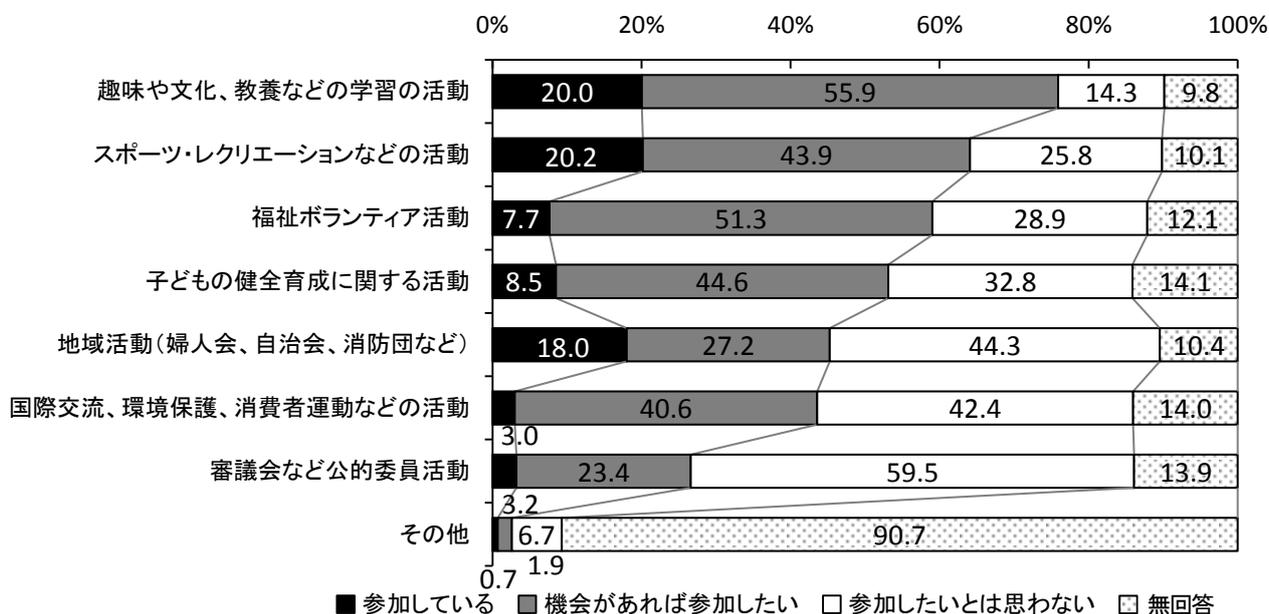
【70歳以上】では、「介護される側のことを考えると、女性が介護するほうが良いと思う」が最も高く、他の年齢では「男性も女性と共に介護すべきである」が最も高くなっています。



7 社会参加活動について

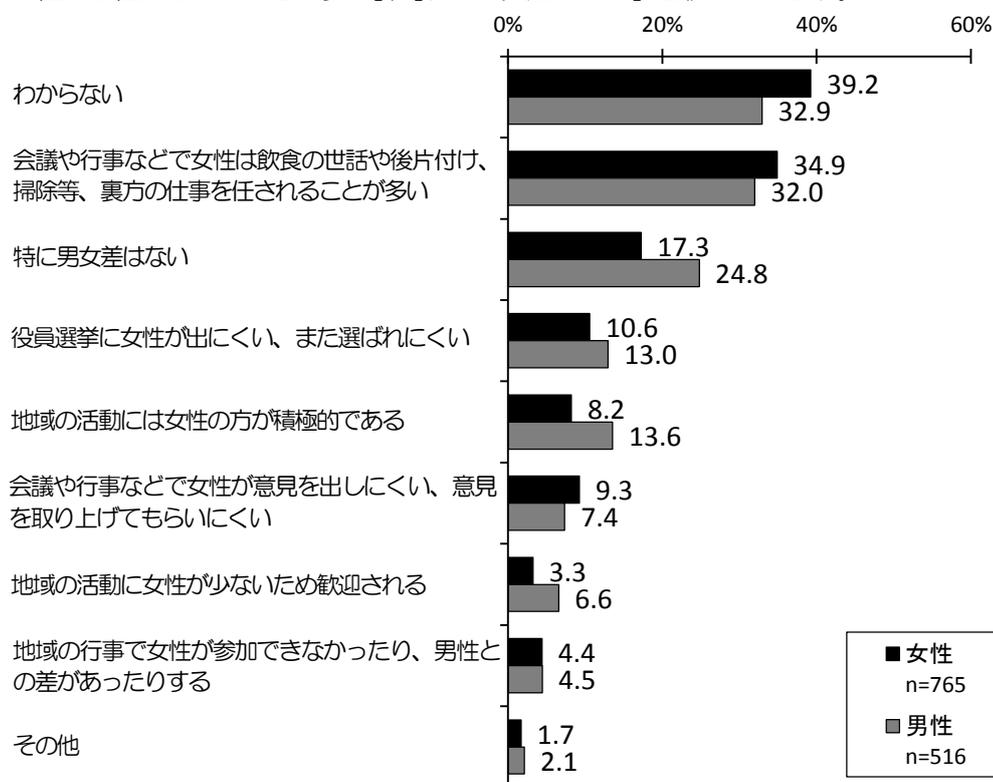
【社会参加活動について】

「参加している」「機会があれば参加したい」を合わせると、【趣味や文化、教養などの学習の活動】75.9%が最も高く、次いで【スポーツ・レクリエーションなどの活動】64.1%と続いています。



【地域活動の場での男女差について】

女性、男性とも、【わからない】が最も高く、次いで【会議や行事などで女性は飲食の世話や後片付け、掃除等、裏方の仕事を任せられることが多い】、【特に男女差はない】と続いています。

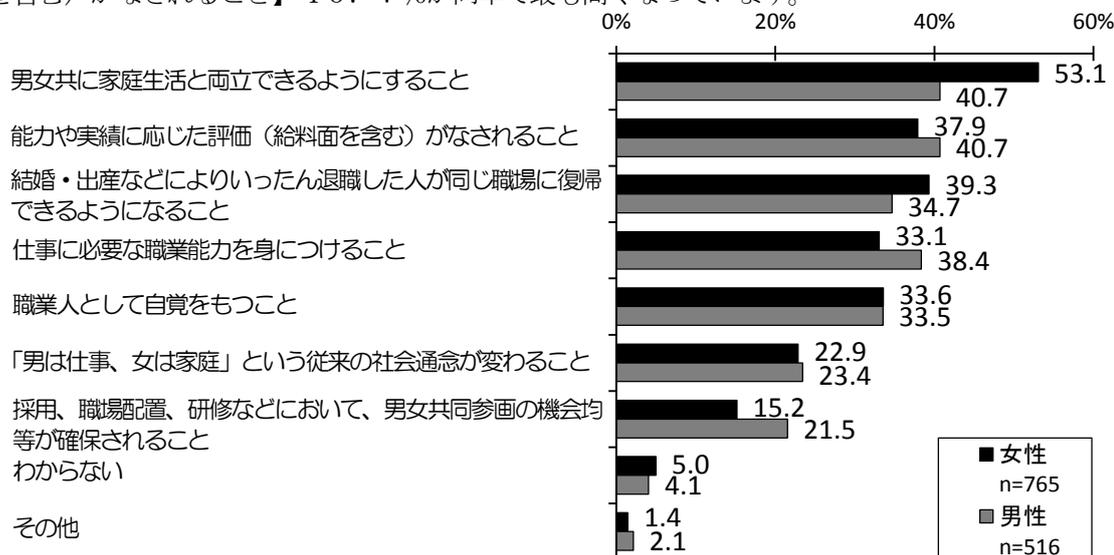


8 職業生活について

【職場での能力発揮や継続勤務のために重要なこと】

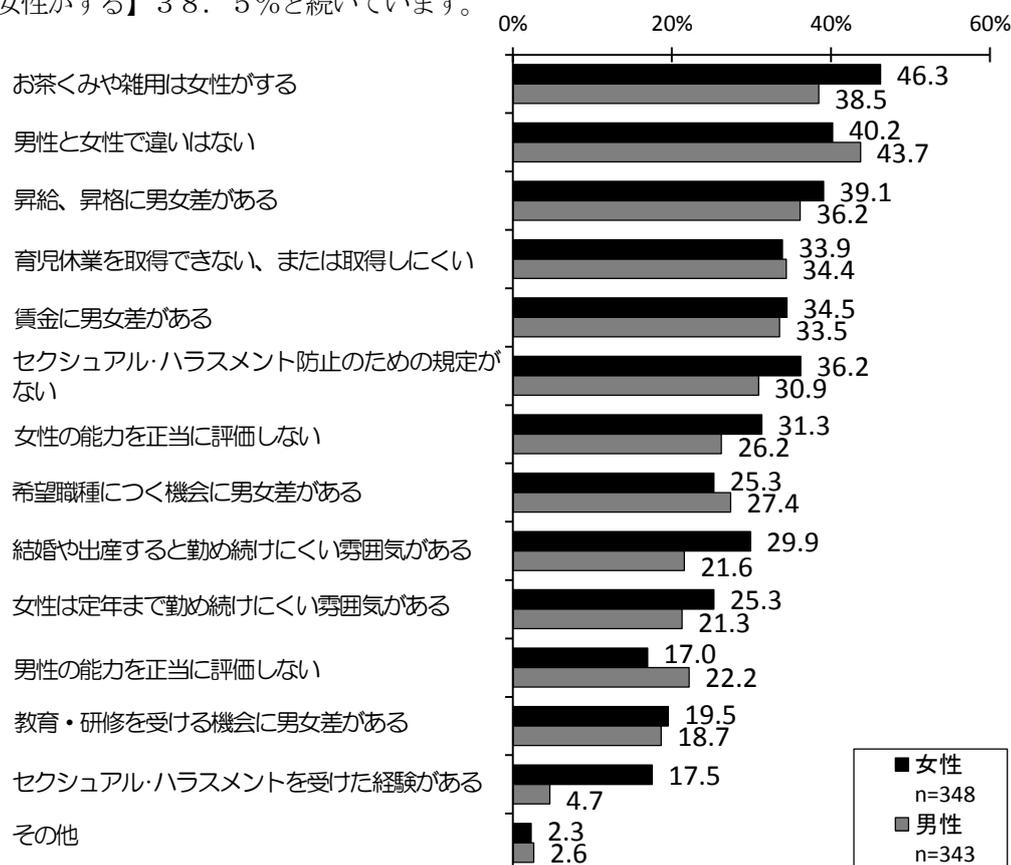
女性では【男女共に家庭生活と両立できるようにすること】53.1%が最も高く、次いで【結婚・出産などによりいったん退職した人が同じ職場に復帰できるようにすること】39.3%の順になっています。

男性では【男女共に家庭生活と両立できるようにすること】40.7%、【能力や実績に応じた評価（給料面を含む）がなされること】40.7%が同率で最も高くなっています。



【職場での男女差について】お勤めの方にご回答いただきました。

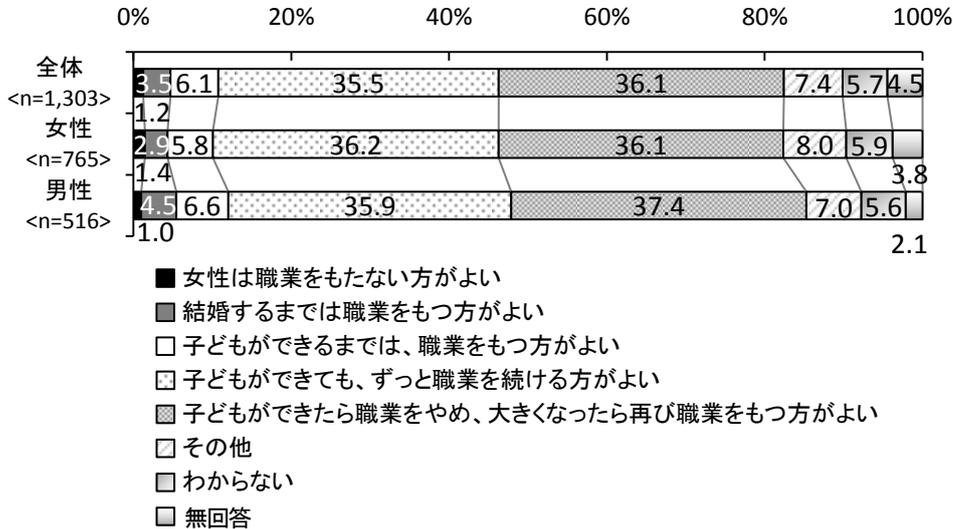
女性では【お茶くみや雑用は女性がする】46.3%が最も高く、次いで【男性と女性で違いはない】40.2%と続いています。男性では【男性と女性で違いはない】43.7%が最も高く、次いで【お茶くみや雑用は女性がする】38.5%と続いています。



【一般的に女性が職業を持つことについて】

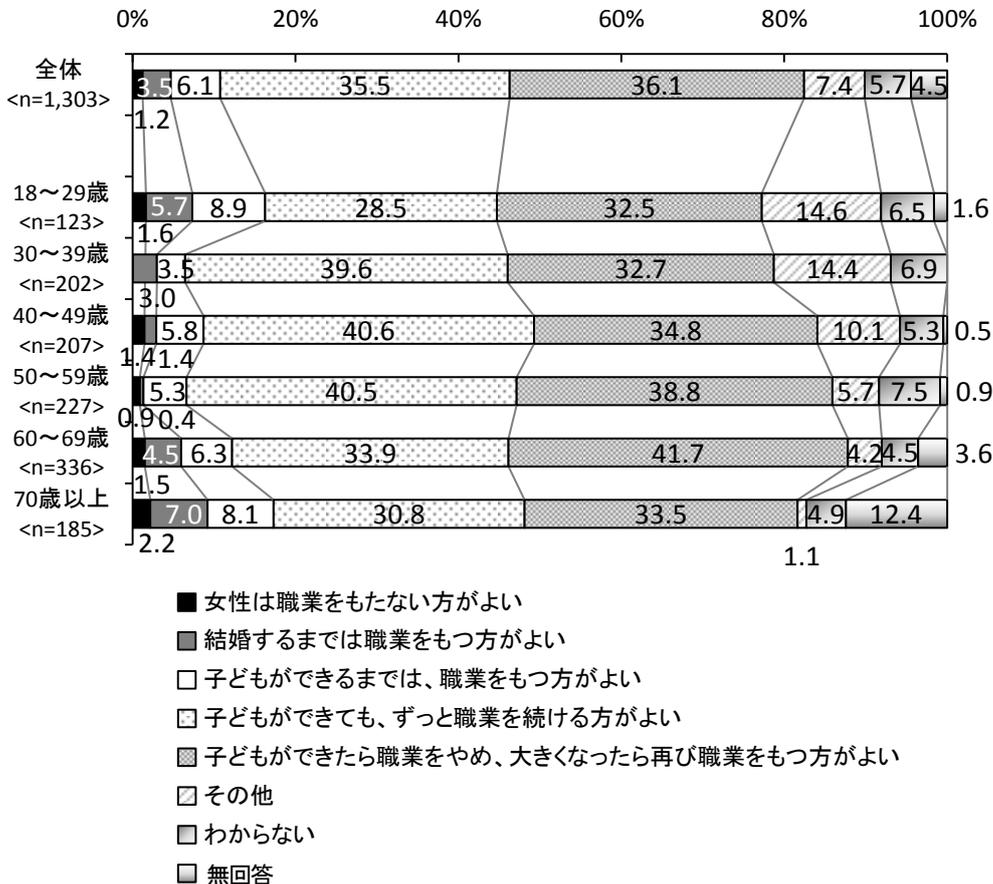
女性では【子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい】36.2%が最も高く、次いで【子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい】36.1%と続いています。

男性では、【子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい】37.4%が最も高く、次いで【子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい】36.2%と続いています。



【一般的に女性が職業を持つことについての年齢別比較】

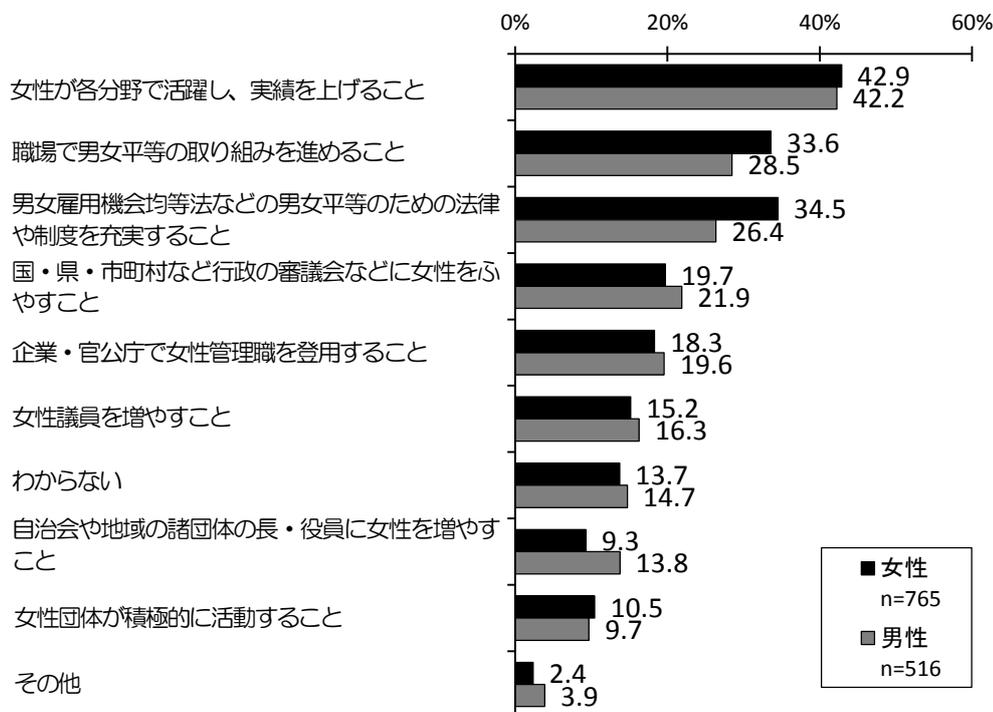
年齢別でみると、【18～29歳】、【60～69歳】、【70歳以上】では「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」が最も高く、【30～39歳】、【40～49歳】、【50～59歳】では、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」が最も高くなっています。



9 女性の社会参画について

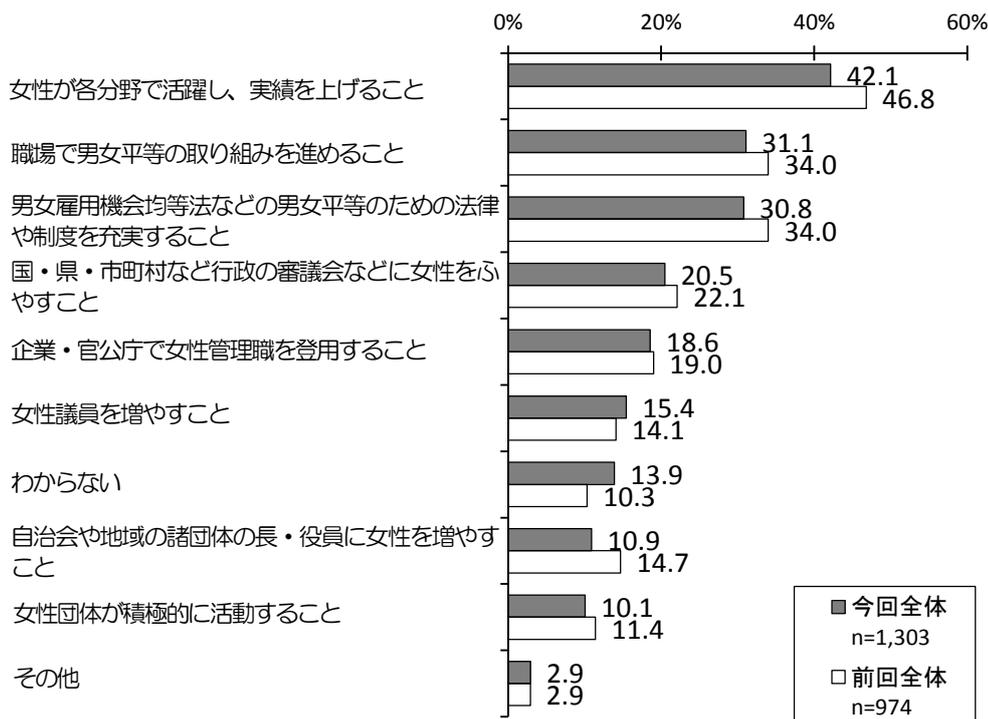
【女性の社会参加参画で大切なこと】

女性では【女性が各分野で活躍し、実績を上げること】42.9%が最も高く、次いで【男女雇用機会均等法などの男女平等のための法律や制度を充実すること】34.5%と続いています。男性では【女性が各分野で活躍し、実績を上げること】42.2%が最も高く、次いで【職場で男女平等の取り組みを進めること】28.5%と続いています。



【「女性の社会参加参画で大切なこと」について前回調査との比較（参考）】

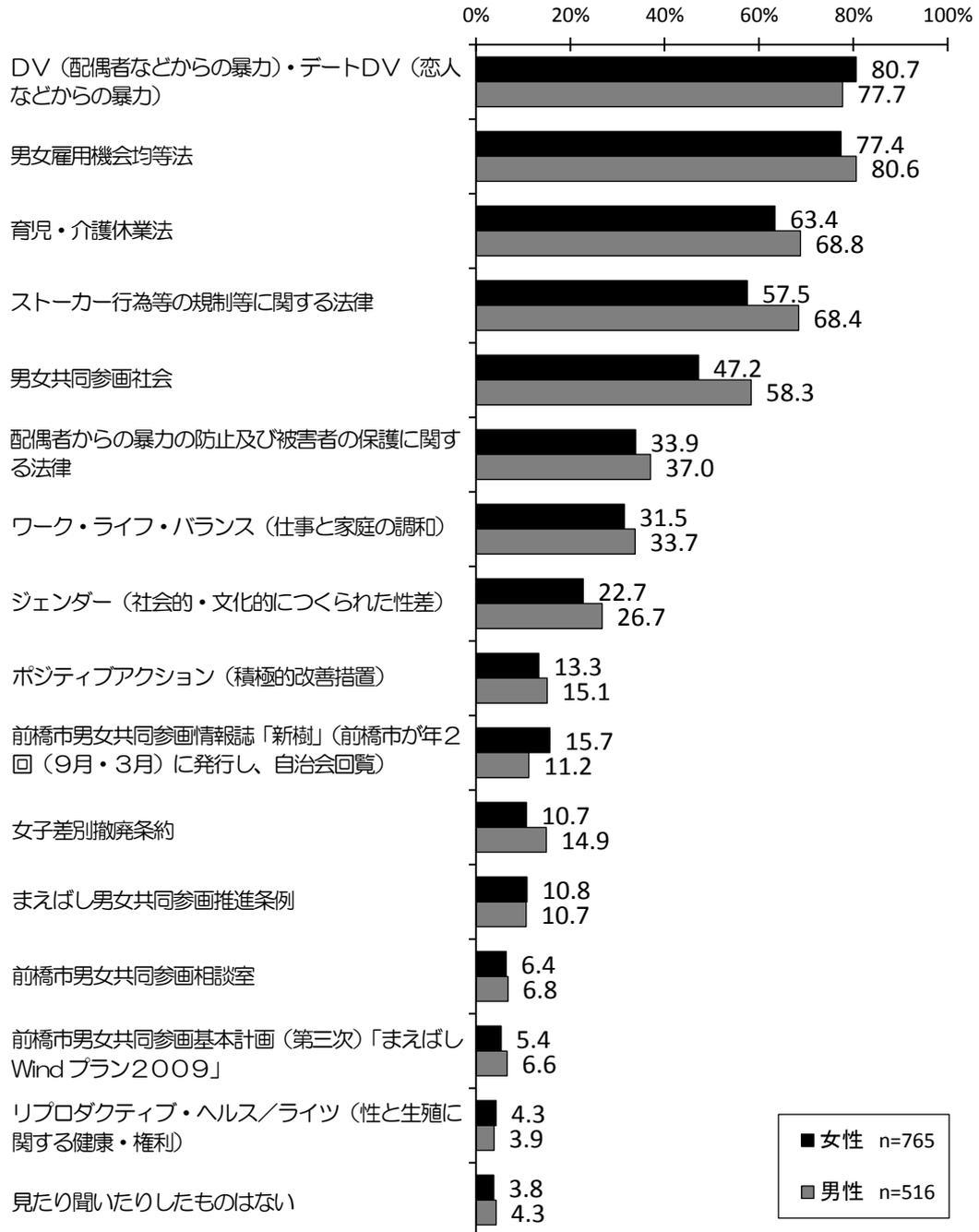
全体で、前回に比べ増加した項目は【女性議員を増やすこと】、【わからない】の2項目となります。



10 男女共同参画を進めるための市の施策について

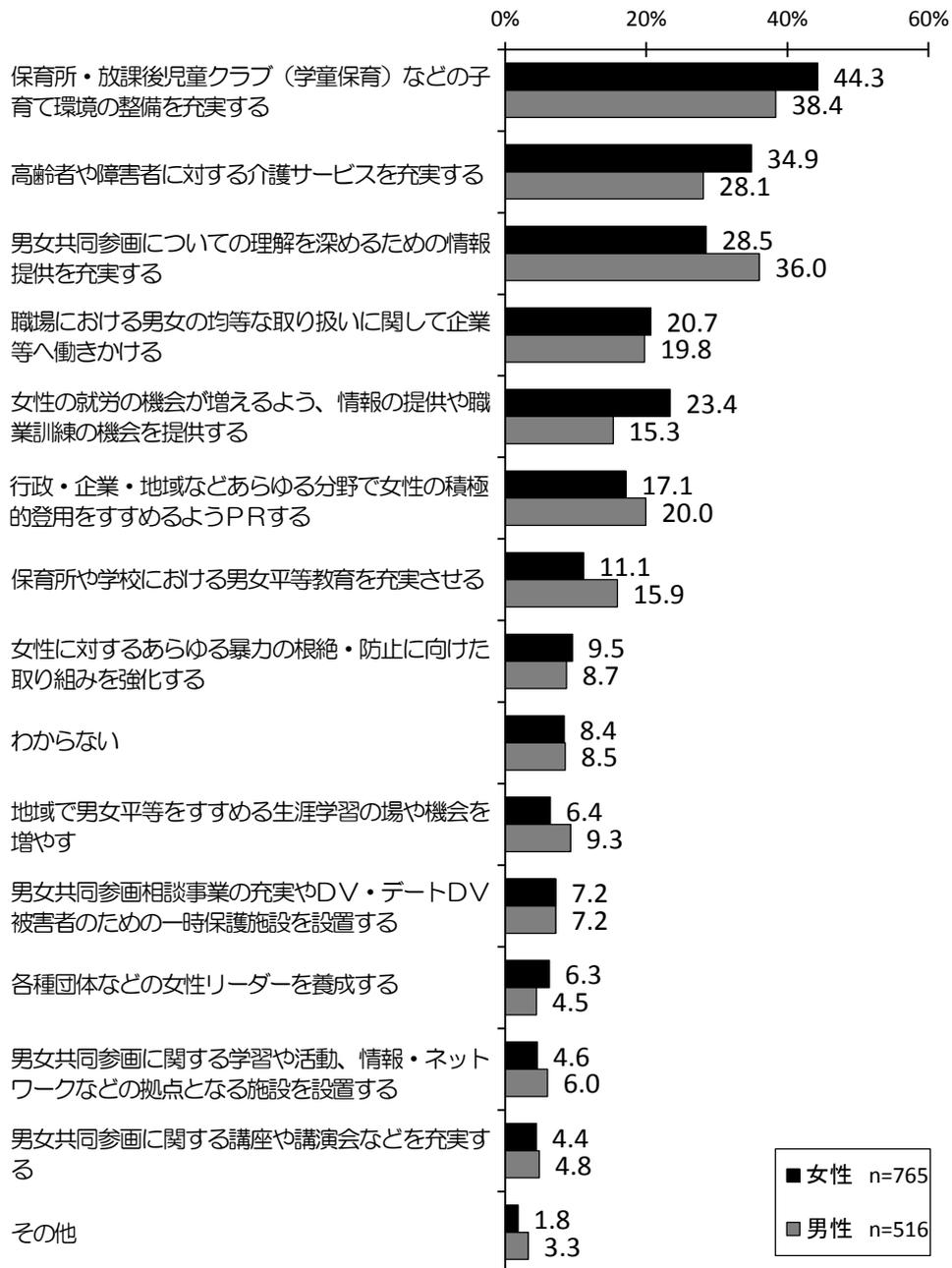
【市の施策の周知度】

男女共同参画に関する用語や施策等の周知度は、女性では【DV（配偶者などからの暴力）・デートDV（恋人などからの暴力）】が最も高く、次いで【男女雇用機会均等法】、【育児・介護休業法】と続いています。男性では【男女雇用機会均等法】が最も高く、次いで【DV（配偶者などからの暴力）・デートDV（恋人などからの暴力）】、【育児・介護休業法】と続いています。



【男女共同参画推進のために力を入れるべきこと】

今後の男女共同参画推進のために力を入れるべきこととしては、女性では【保育所・放課後児童クラブ（学童保育）などの子育て環境の整備を充実する】が最も高く、次いで【高齢者や障害者に対する介護サービスを充実する】、【男女共同参画についての理解を深めるための情報提供を充実する】と続いています。男性では【保育所・放課後児童クラブ（学童保育）などの子育て環境の整備を充実する】が最も高く、次いで【男女共同参画についての理解を深めるための情報提供を充実する】、【高齢者や障害者に対する介護サービスを充実する】と続いています。



男女共同参画に関する市民意識調査結果報告書
<概要版>

平成 25 年 1 月

前橋市 市民部いきいき生活課男女共同参画室
〒371-0023 群馬県前橋市本町 1 丁目 5-2 前橋市職員研修会館 1F
TEL : 027-898-6517 (直通)
FAX : 027-221-6200
E-mail : sankaku@city.maebashi.gunma.jp